スイス日本語福音キリスト教会

JEGニュースレター161号

www.jegschweiz.com　　２０１７年７月５日発行

小さな証

国際結婚の両親の下で５人兄弟姉妹の長女として、三つの国で多感な年頃を過ごした筆者の証。P2

スイスJEG修養会

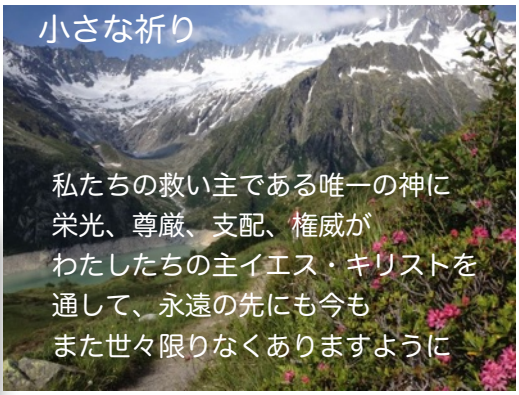
スイスJEGメンバーが神の家族として、初夏の週末を南独で、聖書の学びと交わりの貴重な時間を共にしました。P３

新牧師紹介

この春、デュッセルドルフ、ブリュッセル、ロンドンに待ち望んだ牧者が与えられました。P4

BBQ&WAKARA

新来会者歓迎と教会員の親睦を目的にバーベキューパーティーが礼拝後開かれました。



野の花がどのように育つのか、注意して見なさい。 働きもせず、紡ぎもしない。しかし、言っておく。
栄華を極めたソロモンでさえ、 この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。

マタイ　６：28,29（新共同訳）

ガリラヤ湖上からカペナウム方面を見ると、山上の垂訓が語られたとする丘が、からし畑に覆われて広がっています。

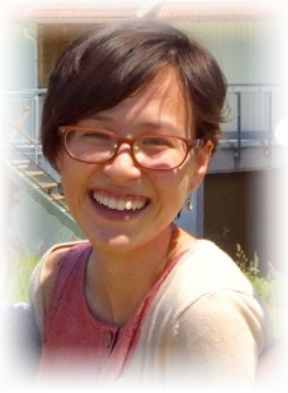
そこで語られたイエス様のことばは、多忙な現代に生きる私たちに、人が生きていくうえに何が最も重要なことかを説いて、心に迫ります。

ちいさな証

試練の中で見つけたもの

トムセン・カレン

スイス日本語福音キリスト教会会員



私は、デンマーク人の父と日本人を母に、５人兄弟姉妹の長女として日本に生まれました。1歳で米国に移住して、６歳で日本に帰り、８歳で再び米国に引っ越しました。そして、米国で小学校卒業後、１２歳で私はスイスに来ました。言葉も場所も新しかったので、中学に入るとともに全てが新しく一から始まる気持ちでした。ただ変わりがなかったのは家族と自分の信仰生活でした。クリスチャンホームの中で育てられたので、神様と聖書の話のことは知っていましたが、別に深く考えてはいませんでした。ただ周りの流れに乗って託した信仰でした。

スイスでの最初の一年半は言葉の苦労がありましたけど、同じ仲間が周りにいたので学びながら楽しく過ごせました。その後、スイス内の違う場所に引っ越した後に生活が難しくなりました。引っ越し先の村での学校は中２から入ったせいとクラスメイト達はもうお互いのことを幼稚園の頃から知っていることもあり、クラスにはすでにグループが出来ていて、クラスにはよく馴染めませんでした。

居心地が悪いと感じる場所では、自分の性格も静かな方なので、より自分の存在を自分で消しちゃう癖は、その状況をよくはしませんでした。みんながお互いとスイスドイツ語で会話をするのにも、ついていけないので問題でもありました。学校に行くのが嫌でしたが、通い続けてはいました。前のクラスがあんなにも良かったから今のクラスが逆になったのかとか、なぜあの人はあんなにいい経験をしているのに私はこんなに苦しまないといけないのかと、疑問に思う毎日でした。自分の祈りも聞かれているのかも分からなくなったりもしました

この中学時代の間での支えは、通っていたインターナショナルの教会でした。そこではみんなで英語を話せて、良い友達もでき、毎週の楽しみにもなっていたことで一週間一週間耐えられていました。ティーンズグループにも途中参加で入ったのに学校とは違って、あっさりと友達が出来ました。その経験で気づけたことは、同じイエス様を信じている人同士、どの国に行っても家族がいる感じだということです。その発見がより良い支えともなりました。その後ウスターにあった日本語教会ＪＥＧにも通うようになり、聖書の学び会にも参加したりする事で、人との繋がりが広がりました。最後の中学の一年間、クラスメートともちょっとは混じわることができるようになったことで無事終えられ、その後通った学校では良い交わりも持てました。

私が苦しかった時に見つけた信仰の大切さは、今でも支えとなっています。より深く聖書を学ぶ中で知った試練の意味、私たちをどん底に落とすためではなく、育ち強くするためだと聞いて納得できます。

（そればかりではなく、患難さえも喜んでいます。それは、患難が忍耐を生み出し、 忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。ローマ書5:3-5）

もし、あのまま良い学校に通い苦しみがなかったら、自分に与えられた人や物の大切さに気づかないまま生きていたと思います。それを教えてくださった神様に今でも感謝しています。今では嫌な状況になる時には、このことから何が学べるのか、何ができるのかと考えるようにもなりました。

苦楽を分かち合える教会の仲間たち

1、霊的成長シリーズが開始

黙示録から”７つの教会に宛てた主の手紙シリーズ”が好評のうち３月に終了し、新しく”霊的成長シリーズ”が４月２３日から開始いたしました。第一弾は恵において成長するをテーマにローマ人への手紙３：２１–２８のみことばがマイヤー牧師によって解き明かされました。この新シリーズのパワーポイントが入ったメッセージビデオは、スイスJEG-HPの説教サイトでご覧頂けます。礼拝メッセージ（Audio/Video）- スイス日本語福音キリスト教会のホームページにようこそ！

また、スイスJEGでのメッセージは、のちに日本CGNTVからもスイス日本語福音キリスト教会のバイブルメッセージとして世界中に衛星放送で放映されています。その後、インターネットのサイトにアップロードされますのでご利用くださるほか、唯一の日独２ヶ国語のメッセージとして、ドイツ語を学ぶ友人や知人にも視聴をお勧めください。スイス日本語福音キリスト　教会のバイブルメッセージ - 日本CGNTV :: 世界のための福音の通路

2、スイスJEG修養会

６月９日から１１日までスイスJEG修養会は、南ドイツのBad　Liebenzell／Haus　Bethellで好天に恵まれ、２８名（スイスJEG外から３名が参加）の参加者を得て開催され、モーゼから学ぶ「祈りにおいての成長」をテーマに深い学びのときを持ちました。

鐘楼から見下ろす古都ヘレンベルグ

土曜の午後からは、リクレーションとしてリーベンツェルの宣教博物館の訪問、美しい古都ヘレンベルグにある鐘の数がドイツ一多いといわれる教会の鐘楼の登り、興味尽きない歴史を学びつつ貴重な時を共に過ごす幸いを得ました。まことに祝福された修養会で、お世話くださったマイヤー牧師ご夫妻と主に心から感謝します。

来年のスイスJEGの修養会は、5年ぶりにスイス(東スイス、トッゲンブルグ）での開催が５月４週目の週末に予定されています。修養会場のHP：http://missionshaus-alpenblick.com

スイスJEG修養会スナップ

3、ユースお泊まり会

BBQ大会にはJEG以外からももゲストが

４月13日（木）から15日（土）にかけて、チューリッヒ郊外のPfadiheim　Alt-Üetlibergにて、スイスJEGユース＆ティーンのユースリトリートが開催されました。部分参加を含め21名の参加者がありました。マイヤー牧師は、マルコ伝に出てくる金持ちの青年や放蕩息子をテーマに、ユースにフォーカスを合わせたメッセージを加え、ご自身の証を織り込み、人生や結婚についてもお話をして頂きました。１５日（土）は、JEG以外からもゲスト迎えてバーベキュー大会を催し、親交を深めました。

大人気の唐揚げスタンド”WAKANA“

4、BBQパーティー

6月18日の礼拝後、MITTERNACHTSRUFのマラナタハウスの庭で、スイスJEG主催の新来会者の歓迎、教会員の親睦を目的とするBBQパーティーが開かれました。新来会者３名を含め、30名が青空の下、パーティーを楽しみました。今回は、起業したばかりの中村有志、マヌエラ兄姉の唐揚げスタンド”WAKARA”の出店があり、大好評を博しました。

5,新任牧師が就任

ヘーゲレ牧師の就任式（4月３０日）

この春、服部滋樹牧師が３月下旬からロンドンＪＣＦに、川上寧・川上真咲牧師がブリュッセル日本語プロテスタント教会に、ヘーゲレ・ディェター牧師がデュッセルドルフ日本語キリスト教会の牧師に就任されました。待望の牧者を与えられた日本語教会が、これから心を合わせ宣教のビジョンを前進させることができますように、どうか、主が必要な力と知恵を与えてくださいますよう、また、新牧師を迎えられた欧州の群れが霊的にも成長する年となりますようお祈りします。

なお、川上牧師ご夫妻、ヘーゲル牧師ご夫妻の自己紹介が４面に掲載されていますのでお読みください。服部牧師の自己紹介は次号に予定されています。

6、ラシェンコ・ベラ宣教師が本帰国

日本と日本人を愛し２５年の長きに渡って、関東／北海道で宣教の働きをされてきたラシェンコ・ベラOMF宣教師が、リタイヤーのため5月12日にスイスに本帰国されました。日本での主と人のための尊いご奉仕に心から感謝します。近日中に、ラシェンコ宣教師をスイス日本語福音キリスト教会にお迎えし、お話を伺えることを楽しみにしています。

7　月報／ニュースレター＆メルマガ

オーニンガー宣教師、クンツ・プスキラ宣教師、ラシェンコ・ベラ宣教師、ローゼンクランツNL、フーサー香織・シモン宣教師からのRundbrief 、工藤篤子メルマガ 、井野葉由美メルマガ号、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会月報、ルーマニア川井勝太郎宣教師の週報、ブリュッセル・ミサ便り、パリ・プロテスタント日本語キリスト教会パルタージュ、イザール通信、夜越山からの便り、ミッション”宣教の声”が届いています。お読みになりたい方は、松林までご連絡ください。

ベルギーよりご挨拶

ブリュッセル日本語プロテスタント教会は
川上寧・川上真咲牧師から

これまでも教会のため、私たちのためにお祈り下さりありがとうございます。

着任までの待機期間が非常に長かったことに対して、人間的には複雑な思いがありますが、それでも神がこの時をお選びになったのだと思います。また、神に用いていただくための備えの時を、十分に与えて下さっているのだと感じます。

一昨年の夏の事故による怪我から、自分の思いが実現することを願うよりも、神の思いを受け入れることの大切さを教えられました。渡航直前には非常にゆっくりと視野狭窄が進む病が判明し、自分の弱さを常に自覚させられることとなりました。

神の宣教に用いられるために必要な弱さが与えられました。「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」(Ⅱコリント12:9)この御言葉が必ず実現することを信じ祈っています。共にお祈りください。（寧）

私は高校生の時に洗礼を受けたことをきっかけにキリスト教に関わる働きがしたいと思うようになりました。短大で幼児教育を学び、教会付属の幼稚園教師になりましたが、子どもたちにもっと魂に届く教育をしたいという願いから神学校へ進みました。卒業後、伝道師として働く最中に、体調を崩して入院、手術となり、心身ともに疲れを覚えて一度は伝道者の道から退きました。

その後、牧師と結婚、一生牧師の連れ合いとして生きるのかと思っておりましたが、再び伝道者として立たされ、さらには考えたこともないヨーロッパでの邦人伝道に携わらせていただくこととなりました。神さまの不思議な導きにはただ驚くばかりです。

ここに至るまでの多くの方々のお祈り、お支えを改めて感謝いたしております。どうぞこれからよろしくお願いいたします。（真咲）

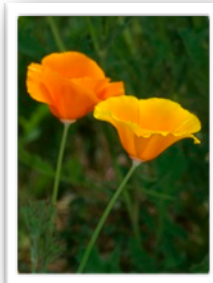
神様の不思議な導きで

デュッセルドルフ日本語キリスト教会は
ヘーゲレ・ディェター牧師夫妻から

初めまして。デュッセルドルフ日本語キリスト教会のヘーゲレ（Dieter & Elisabeth Hägele）と申します。主の導きにより今年の1月1日に牧師として赴任して、4月30日にマイヤー先生の司式により就任式を挙げることが許されました。

私たち夫婦は、1986年9月に初めて日本に遣わされ、2016年10月まで日本での福音宣教に携わらせていただきました。30年にわたる活動は、①教会開拓（主に栃木県、自治医大前キリスト教会）、②キャンプ伝道（奥多摩福音の家、マイヤー先生の後任として）、③宣教団の在日法人代表、の三部に分かれます。

教会開拓の現場から離れた後も、協力宣教師として教会の働きに関わったり、外部説教者として関東各地にある多くの教会で奉仕させていただいたりして、沢山の兄弟姉妹と出会い、主にある幸いな交わりを与えられ、神の祝福と恵みを豊かに受けてきました。しかし、時が経つにつれ再び直接的に、そして、フルタイムで教会における福音宣教がしたい思いも強くなってきました。そこで、代表の務めを2期8年の奉仕をもって終了させようと考えているうちに、デュッセルドルフでの牧会を考えてもらえないか、との問い合わせがありました。（これもマイヤー先生からでした。）

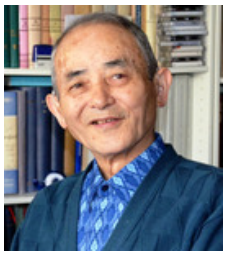


2015年の秋に実際にデュッセルドルフに来て、2週間ほど教会で奉仕をさせていただいてみたら、とても良い交わりを与えられたうえ、教会がドイツにある日本人社会に対する熱い救霊の思いがあることを知り、私たち夫婦が考えてきたことと重なることが多くあると思い、招聘を承諾するに至りました。

こうして神様の不思議な導きを感謝しながらやって参りました。赴任したばかりで慣れないこともまだ多いのですが、ヨーロッパ各地にある教会とともに邦人宣教に励んでまいりたいと願っています。お祈りに覚えていただければ幸いです。

イエスの目線

オランダ日本語聖書教会は
村岡崇光兄から



2010年に北ボルネオのコタキナバルのサバ神学校で新約聖書のギリシャ語初級を５週間教えさせてもらいました。学生は中国語系とマレー語系と半々でした。

彼らの中にはこの必修科目をかなりの負担に感じている学生がいることが感じられ、なんとかしてやる気を起こすように心がける必要を痛感しました。ギリシャ語の冠詞を学んでいたとき、「君たちは中学で英語をやったとき、どういう

場合にthe bookと言い、どういう場合にa bookと言うのかを覚えるのにすごく苦労したはずだ。君たちの母国語のどちらにも冠詞はない。ところが、ギリシャ語には定冠詞に２４もの形があって、英語だったらみんなtheで訳せるんだから、本当に同情に耐えない」と申しました。

そして、ルカ伝１５章の有名な「放蕩息子の譬え」の講読の時間に、我が子の帰宅を待ち侘びていた父親がある日、息子が戻ってきたのに気付き、「可哀想に思って」、まだ遠くにいたのに駆け出していって、抱きかかえて接吻した、と２０節に書いてあるけど、「可哀想に思って」と訳されているギリシャ語の原語は「断腸の念に駆られて」としたほうがもっといいと思う、と述べました。

「放蕩息子」レンブラント

「断腸之念」と黒板に書いて、漢語のこの表現は紀元３世紀、古代中国の桓温（カンオン）があるとき従者を連れて旅に出、森の中を通っているとき、従者が樹の間に子猿を見つけたので、長旅の慰みにと思って捕まえて連れて歩いた。ところが、その母猿が二人に見え隠れしながら後を追い、飲まず食わずで５里程行ったところで疲労困憊、路上に倒れて死んだのだけど、物音に気付いた従者が引き返して猿の腹を切り裂いてみたところ、我が子のことを憂い、念ずる母親の腸は全部細かくちぎれていた、という故事に基づくものらしい、と話したところ、中国系の学生は、「先生、この話をギリシャ語で読むことでそんなに深く味わえるんだったら、２４の定冠詞の形も覚えるのは苦になりません」、と言いました。

アルプスに咲く忘れな草

今朝祈りの時間に私はルカ７章に出ている短い話を読んだんですけど、イエス･キリストがガリラヤのナインという町を通られたとき、ある寡婦が一人息子に死なれて、その埋葬のために村の人たちと一緒に墓地へトボトボ歩いて行くのに出くわされ、「可哀想に思って」、「もう泣かなくともいいよ」と言って、息子を生き返らせてやられた、という話ですけど、そこでも、放蕩息子の譬えの場合と同じギリシャ語が使われています。

そして、今朝初めて気がついたのですけど、スプランフニゾマイというこの動詞は新約聖書で合計１２回出て来て、放蕩息子の譬えの場合以外は、いずれも、なにか痛ましい場面に出くわされたときイエス･キリストご自身がどう感じられたかを表現するのに使われています。たいていの場合はそばにいた人たちが受けた印象を表現していますが、一度はイエスご自身がその言葉を口にされたことになっています。

自分の話を、三日間もろくすっぽ食事もせずに熱心に聞いてくれている群衆を見て、「私は断腸の思いに駆られる」と言われた（マタイ１５：２３）というのです。放蕩息子の譬えを語りながら、イエスはその父親と気持ちが重なられたのではないでしょうか。

私たちのイスラエル

オランダ日本語聖書教会は

村岡桂子姉から

素晴らしい感動の「イスラエル旅行：証し集」を送ってくださり、ありがとうございました。丁寧に読み、写真をじっくり眺めさせていただきました。皆様の感動が伝わって、私自身も十分感動させていただきました。

５０数年前の村岡の留学生時代に、聖地で暮らす特権をいただき、生活一切が不便ながらも一生懸命生きたことを思い出しました。当時は、貧乏留学生ですから、また、世界中どこも「これから・・・・」という時代でしたから、特に、イスラエルも新しい国建設で一生懸命でしたから、食事が美味しいとはとても思えず、、交通は不便、誰も彼もゆっくりする暇などない、という時代でしたから、この度の「証し集」のなかに、食事が美味しかった！　とあり、ああ、良い時代になったんだ、と嬉しくなりました。生活の中での聖地訪問を体験し、ひそかな（やはり、イスラエル・ユダヤ人の中でのクリスチャン生活はひそかにせざるを得ませんでした！）感動を覚えておりましたが、以後、聖書を読む時に、ああ、あの場所で・・・・と、土地の名前に、親しく思いを馳せることが出来るのは、特別な恩恵として味わっています。

素晴らしい「証し集」の編集のご労を感謝し、また送って下さったご親切を感謝しています。ありがとうございました。

シナイで見た神の真実

オスロJCFは

金子進兄から

2月のシナイ訪問時にサイド君一家への太陽光パネルによる発電計画はワデイの奥までの運送が困難で断念しました。替わりに移動が可能なガソリン発電機を使用することで同意しました。4月の訪問時にイタリヤ製の出力5kw一台とガソリン100リットル、オイル20リットル、工具などをアイン村まで運び、献品しました。村からアインキッドまではカメルや数人の男性で運ぶそうです。

今回も野菜やフルーツ、米、塩、油、洗剤などを買い集めました。チョコはオスロから。

4月にも毎回のことですが、サイド君と二人でアインキッドを探索しました。衛星写真で今までに入ったことのない山

肌の木々に隠れたものを発見したからです。不思議なことです。電話もメールも使用できない奥地ですが、私が来ることを運ちゃんから連絡されたサイド君は、同じ場所を一人で前もっていろいろと探索したとのことです。その時に足を滑らし2メートルほど落下して左足を打撲し、私と再会した時は痛々しい包帯から血と膿が滲んでいました。すぐに薬局医師に診てもらい、消毒し、全治2週間分の薬や消毒剤、ガーゼ、包帯など10種類ほどを買い、持たせました。

沢山の食料を買い込んで一緒にアイン村に運びましたが、足の腫れや熱が下がったころに、また来るから今回はワディに入らないことを告げ別れました。数日後に再訪し納得のいく探索が出来ました。「聖書はやはり真実だった」と証言できるいろいろな体験をしています。

ワディの最奥の村には13人の子供たちが住んでいます。サンダルを履いているのは二人だけでした。足のサイズをはかり、数日後にサイド君とダハブ市内で全員のサンダルを買いプレゼントしました。子供たちの喜んだ顔を想像して見てください。

主の導きに従って

オーストリアはリンツ・OMミニストリーから

矢部晶宏・幸恵

日本から22時間のフライトの末、無事オーストリアのリンツに着きました。6月16日から24日までOMオーストリアのヴィジョントリップ（移民・難民支援のミニストリー体験）に参加してたくさんのことを感じました。

シリア、アフガニスタン、イランなどの国から逃げてきた人たちの中には、雰囲気が暗い人、過去のトラウマを忘れようと陽気に振舞う人など色んな反応があり、そこには想像し難い悲しい過去があります。しかし「すべての人が神に愛されている」という真理に立って協力しながら支援ミニストリーしている団体や教会に感銘を受けます。リンツではアジア人が珍しく（世界どこででもいる中国人さえ街で見かけません！！）僕ら日本人は超超マイノリティーですが、移民や難民の人たちからも「日本はいい国だ！」歓迎されました。

移民の子どもたちのミニストリー（I Punkt: Integration Point: 融合点）にも参加し、妻が子どもたちに折り紙を教えました。言葉の壁があるにも関わらず、多くの女の子たちが妻のところに集まってきました。日本の折り紙は大盛況でした！子どもたちや難民の方々と接するうちにドイツ語を勉強したい！という妻の思いが強められていきました。息子の理央は他の子どもたちと仲良く遊んでましたが、ドイツ語を喋れるようになって、もっとコミュニケーション取り、得意の変顔でジャパニーズコメデーの普及に尽力したそうにしていました（笑）

OM　Eastというウィーンに拠点を置き、東ヨーロッパを中心に活動している団体との合同祈り会にも参加しました。

元共産党の国々では想像を絶することが今でも起こっています。あるOMスタッフたちは売春婦の女性を救い出す働きをしているのですが、すべての国境に売春婦がいて、その中には幼い女の子もいるそうです。ハンガリーのエイジ（仮名）さんは、4年間一室にずっと閉じ込められており、次から次へと強姦されていたそうです。その子を救い出し、今エイジさんは外に出られるようになったのですが、頻繁にパニック障害に苦しんでいるということです。OMEastの事務所では、プリンターを導入し、クリスチャンの本を作るビジネスを始めようとしています。救い出した売春婦の女性たちを雇って彼女たちの自立を目指します。
どうぞ彼女たちのために、また東ヨーロッパのためになされているミニストリーのためにお祈りください。

OMのスタッフもミニストリーも素晴らしく、御心ならまたリンツに戻りミニストリーチームに入りたいと妻と話していたところ、OMからメールをもらいました。
「We had a very positive talk about your visit, today. All of our team would be very excited if you can come to Austria and join us as soon as possible 」
正式に受入れ許可がおりました。ここまでとても長いプロセスでしたが、道を開いてくださった神様とお祈りでサポートしてくださった方々に心からの感謝を送ります。
今後は日本を中心にデピュテーションをし、ビザの申請と並行して毎月必要な額のサポートが集められると証明できて初めて正式な派遣となります。御心なら2019年1月以降の本派遣を目指します。

僕らが宣教の最前線で活動できるのは、バックアップしてくださる方々がいるからです。最前線と同じぐらい重要な働きを担ってくださるバックアップの皆さんの祝福をお祈りし感謝しています。これからも家族で主の導きに従っていきたいと思いますので、今後ともお祈りよろしくお願いします！

ローマ10章「信じたことのない方を、どうして呼び求めることができるでしょう。聞いたことのない方を、どうして信じることができるでしょう。宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう。遣わされなくては、どうして宣べ伝えることができるでしょう。」